

令和元年度第2回総合教育会議 議事録

1 開催日時

令和元年8月21日(水) 13:30～15:00

2 出席者

(1) 構成員

市長	園田 裕史
教育長	遠藤 雅己
教育委員	渡邊 敬
教育委員	佐古 順子
教育委員	村川 一恵
教育委員	嶋崎 真英
教育委員	中嶋 剛

(2) 説明者

教育政策監	丸山 克彦
教育次長	吉村 武史
こども未来部長	山中 さと子
教育総務課長	三岳 和裕
学校教育課長	橋口 智秀
こども政策課長	赤瀬 雅昭

(3) 事務局

企画政策部長	山下 健一郎
企画政策課係長	松園 洋平
企画政策課職員	宮田 淳仁

3 協議事項

- (1) 学校施設等の開放について
- (2) 教育関係予算について
- (3) 市民満足度調査(教育関係)の結果について

4 その他

5 閉会

企画政策部長 山下 健一郎

皆さん、こんにちは。定刻となりましたので、ただ今から令和元年度第2回総合教育会議を開催いたします。本日も司会を務めさせていただきます、大村市企画政策部の山下でございます。よろしくお願いたします。

まず始めに、お手元の資料の確認をお願いいたします。配布しております資料は、会議次第と出席者名簿と配席図、それと資料1「平成29年～令和元年市民満足度調査結果（教育関係）自由意見まとめ」の資料でございます。資料2が「平成29年～令和元年市民満足度調査結果（教育関係）豊かな学力と生きる力を育む教育の充実」の資料となっております。不足等はございませんでしょうか。宜しいでしょうか。

それでは、早速ですが、次第に沿って進めてまいります。開会に当たりまして、大村市長園田裕史がご挨拶を申し上げます。

大村市長 園田 裕史

皆さん、こんにちは。本日は令和元年度第2回総合教育会議に大変お忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。また、日頃から大村市の子供達のために教育行政の発展にご尽力いただきまして、誠にありがとうございます。また、今日は過去最多となる傍聴に多数お越しいただき誠にありがとうございます。

前回の総合教育会議からの動き等々含めてご挨拶をさせていただければと思っておりますが、お手元の資料にもありますように、毎年、市民満足度調査というものを市民の皆さんに、だいたい3,000人に郵送をして無作為抽出で、だいたい3割回答なので1,000件弱の回答をいただいているのですが、その中に毎年やはり教育や子育てに関するご意見がたくさん届きます。こういったものをベースに予算を考えたり、いろいろな教育子育て支援策を考えたりすることを進めておりますので、そういった事も後程ですね協議の中で進めさせていただければと思っております。また併せて

今日の夕方に、今年度の令和遣欧少年使節で行った子供達が帰ってきていて、報告をしてくれるんですが、大村市から2名、今年度行っています。この令和遣欧少年使節というのは、西海市、南島原市、波佐見町、大村市、雲仙市そして宮崎県の西都市の6自治体で天正遣欧少年ゆかりの地首長連合という形で会議体を作っていて、だいたい3年に1回ヨーロッパに子供達を派遣していて、今年度が派遣年ということで大村市からも2名行っております。今年はローマ法王も来日、来崎されるかもしれないというタイミングでして、非常に意義が大きいのかなと思っています。昨年度から勝手に世界遺産とか、こういったいろいろな取組みをやっていますが、ベースにあるのはやはり440年前の偉業をもう一回見直して、そういった偉人のことを多くの子供達に知っていただきたいという思いがあります。併せて前回の総合教育会議からの動きでいうと、石井筆子さんのNHKにおけるドラマ化ということで、山下部長を始め関係機関全部揃って、大村市そしてNHK長崎放送局、それと漫画を作った日本財団、それと本当は滝乃川学園も一緒に行く予定だったのですが、ちょっと都合がつかずに行けなかったということでしたけれども、NHK本社の方に要望活動に行って参りました。感触としては悪くは無かったのですけれども、今後しっかりと検討していきますという形でいただいております。いずれにしても渡辺清さんの御息女である石井筆子さんですけれども、この渡辺昇、清、石井筆子以外の長岡半太郎、長岡安兵衛、長与専斎等々、大村市の偉人を活かした教育というものができないかなと、いろいろな形の中で、私としてはイメージしており、次回会議を持ちたいと思っておりますけれども、来年度教育大綱の改正ですので、そういった中で私としては盛り込みたいと思っております。そういったこともご議論いただきながら第三期の大村市教育振興基本計画の策定にも教育委員会の中でもあたっていただきたいなというふうに考えています。そういった中

でいろいろなご意見が様々ありますけれども、私も個人的には任期がもうすぐ満了を迎えるということで、この4年間を振り返ってみますと、本当に教育委員の皆さんにご理解ご協力いただきまして様々な教育行政を前に進めることができたかなと思います。お陰様で学力の向上であったり、いろいろな形の変化が見られてきているのかなと思うので、これを次に繋げるといことが重要であると思いますので、そういったところを含めて、私は私なりの考えを皆様にお伝えしましてまたご議論いただければと思っていますので宜しく願いいたします。本日は誠にありがとうございます。

企画政策部長 山下 健一郎

それでは、次第(3)協議に移ります。

ここからの進行は、大村市総合教育会議運営要領に従い市長が行います。園田市長お願いいたします。

大村市長 園田 裕史

まず、協議事項(1)学校施設等の開放について、でございます。これは、教育委員会の皆さんにご意見を聞く総合教育会議という場ではありますが、教育委員会という独立した組織があることが故、私も慎重に言葉を選びながらお話をしたいと思います。繰り返しになりますが、私もまもなく任期満了です。ただ次のいろいろな教育政策というものも今の時点でイメージしています。選挙とは別です。選挙の話ではありません。選挙とは別で、今の時点で将来的な教育行政ということを考えていて、その中で将来的にこういうふうにあっていききたいということをお聞きするということでご理解いただいて、ご意見いただければと思っています。その中で私が「学校施設等の開放について」ということで議題に挙げているのですが、やはり地域教育を進めて行くうえで、これまでの総合教育会議の中でも皆さんにいろいろとご意見を聞いて、学校をもっと地域に開放して、地域の方々がもっと学校に入ってこれるような、そんな仕組みの構築をしたいなと思っています。そうい

った中でちょうど今週の月曜日から松原で寺子屋塾が開校されたという形で継続した取組みがなされていますが、是非委員の皆さんで、学校を開放することのデメリット、メリットまたは開放するのであればこういうことを考えて開放するべきだということや、開放することでこういうことが得られるとか、こういうリスクがあるとか、幅広くこれまでの取組みも含めてお教えしていただければと思っています。具体的にはですね、私としては、もっと地域に学校を開放して、地域住民が拠り所となるような拠点作りが学校にできると良いなと思っています。なぜかという、私自身も健全協の活動や事務局とかいろいろとしてきましたけれど、やっぱり大村市内をエリアで見た時に、ひとつ中学校区というのは、大村市内よく言われるのが、8地区と言われますけれども、三浦、鈴田、大村、西大村、萱瀬、竹松、福重、松原で8地区です。中学校は同じ感じで6地区ということで、非常に中学校区というのは地域をイメージしやすい。また渡邊委員もいらっしゃいますけれども、これから高齢化社会になっていきますと、高齢者の方々を地域で見守ろうとか、そういう動きも進んでいます。地域ってどのくらいのエリアとイメージする時に、やっぱり中学校区ということでイメージしやすい。それをもっと細分化されたものが、小学校区ということになります。地域活動とか子ども会とか、今大村市で課題になっている町内会の加入率とか、子供会の加入率とか、人口が増え続けていることによる地域コミュニティの希薄化とか、こういった事を解消していく為にも、小学校区というひとつのエリアを持ってまちづくりを進めていく、教育を進めていくということが分かりやすいかなと、じゃあ学校を開放して、もっと学校に入ってきてもらったりということが出来ないかなと思っています。是非、皆様から忌憚のないご意見を頂戴できればと思っています。それでは、本日は誠にありがとうございます。

企画政策部長 山下 健一郎

少し、私の方から補足をさせていただきます。地域に開放した施設の在り方につきましては、平成の始めから論議をされておりまして、大村市においても玖島中学校の校舎の建設の時には、特別教室を地域に開放できるように、別棟建てにして、しかも学校とは閉鎖ができる、区分ができるような形で作ったのが、平成14、15年のことです。その後、池田小の事件とかがありまして、学校全体をもっと門扉を作って、外部からの人達を入れないようにしようという動きもあって、少し学校における地域開放の動きが変わってきていると思います。また、最近では少子化による余裕教室ができてきて、そういったところを地域に開放しようと、地域の方が入ってきていただいてという形の動きもあるということで、今後どれが良いのかというのはなかなか地域、地域で考える事かなと思います。そういった環境の変化が起きているのかなと思っています。以上、補足でした。

大村市長 園田 裕史

ちょうど中嶋委員が現職であられた頃に、開放というのが一時期進んでいたのですが、その後やはり池田小の事件や他の事案もあって、開放、開放というものがはたして良いものかということもあり、県としては「ココロねっこ運動」が進み、「ココロねっこ週間」というものが一定期間設けられて、その期間であれば学校が開放して観に来てもらう、ただその時にはセキュリティをきっちり学校、PTA でやってですね、やろうというあり方が進められている。そういった経過を経て、私としては学校をさらに解放できないかなと、やはり皆さんちょっとお答えづらいかなと、漠然としすぎているんですが、現職の議員さんもしらっしゃるし、私もマニフェストの内容を思いっきりここで言うということもあれですけども、具体的にはこういうことです。公共施設が老朽化しているので、今から建替えが進んでいくんです。アセットマネジメントの計画でいくと、今、平成35年に計画ではまずは福重小学校を2年間で、

その後平成37年から三城小学校を2年間で、その後平成39年から中央小学校を2年間で、その後いろいろあって、平成60何年に旭ヶ丘小学校ということで計画は組んであります。これを全部一気に地域開放型にというようなむちゃくちゃなことを思っているのではなくて、例えば福重小学校を最初に建替えをする計画があるんでしょうが、今後建替えを財源を獲得して進めることができるのであれば、その時に近隣にある出張所や住民センターなどが一緒に統合したような総合複合型の学校運営ができると、ひとつのモデル地区としてやっていくことがどうなのかと、もし、それが上手くいけば、学校を建替える時もそういったことを考えてもいいんじゃないかと思っています。具体的に福重をそうやるとは思っている訳ではないですが、まずモデル地区を選定して、統廃合という廃合という意味ではないですけど、学校をどうせ建替えるのであれば、地域のコミュニティセンター的な機能も学校の中に持たせて、地域の方々が学校に入ってきて、事業にも活かせるし、または高齢者の方々が子供達とふれ合うことで生きがいを作ったり、そして災害が起きた時には災害にも強い防災拠点にもなるし、こういった学校もひとつ地域の拠点とする考え方をすることで、地域協力が進んだり、または高齢者の生きがいが進んだり、地域のコミュニティが活発になったり、町内会、子供会の加入率が活発になったり、こんなことに繋がられないかなということを建替えと併せてすることができないかなと思っています。

教育委員 村川 一恵

イメージができなかったのですが、今、市長の話聞いてイメージができました。でもイメージができたのもやはり小さな規模の小学校で、萱瀬とか福重とか松原とかの小学校でイメージがついたのですが、住民センターにある調理室、あと小学校にある調理室はほとんど使われることが無いんですね。でもすごく器材が揃っているというこ

とがありまして、もし同じように地域の皆さんと一緒に使えることができれば、地域の食会や調理しましたよ、地域の人達皆で食べましょう、同時給食会をしますよ、という時に子供達とも一緒に同時給食会をすとか、地域の連携とか、あとコミュニケーションも取れるなど、すぐ思い浮かんだんですね。調理室については、もし開放できるのであれば、今ちょこちょこ始まっている子ども食堂とか、子供にご飯を食べさせたい、作りたいという人達が場所が無くて転々とされているという現実があるので、本当は彼らも各小学校、中学校地域でやりたいという希望があるので、小学校が開放できればなお良いし、待っている時間に図書室で自由に本を読んだり、学習したりすることができるなど、すごく良い理想体形に近づいているなと思いました。ただやはり、小学校の開放については、教頭先生がカギを開けたり閉めたりされるので、そういった教員の負担が増えないようにするというのと、あとは駐車場の問題とかセキュリティの問題とか、個人情報がたくさんあると思うので、そういう為の工夫をしないといけないと思うのですが、これからの未来にはすごく必要なことだと思います。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。駐車場のことも例えば、お昼は住民センターの駐車場が動いています。ところがお昼は小学校の駐車場は動いていない。夜は空いている。昼は小学校の駐車場は埋まっているけれども夜は空いているということですが、双方で利活用すると場所の有効活用ができるのではないかと思います。さっきの調理室の件もそうですけれども、お互い作るのではなくて、シェアすることによって、いろいろな合理的な、またコスト的にも縮減することもできるのではないかなということもあって、小学校を活用した建替えというタイミングを含めて、学校を開放することが非常に合理的ではないかなと思ってまして、いろいろとレポートを書

いているところです。嶋崎委員よろしいでしょうか。

教育委員 嶋崎 真英

校区というのは世代を超えたコミュニケーションを図るためにも、大切なコミュニティです。一方、日本の各地で事件や事故が発生していることを踏まえると、セキュリティの面から学校の開放には消極的にならざるを得ない現実もあります。学校に入館管理システムなどの必要なセキュリティシステムを備え、それらに係るコストの問題を解決できれば、図書館のように学習の場としても活用できるのではないかと思います。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。中嶋先生いかがですか。

教育委員 中嶋 剛

この運動のですね、来年度から実施される新しい学習指導要領、これをいわゆる「地域に開かれる学校」ということで、地域との連携ということを非常に謳っているんですね。しかし、これがどういうものを連携というのかは、ちょっとまだ具体的には見えてきません。そういう点がひとつと、いろいろと嶋崎さんもおっしゃいましたけれども、セキュリティの問題が非常に大きいですね。私が現役時代もあれだけの事件があって、とにかく外部から入れないようにしようということが真っ先に各学校にあって、ひどいところはカメラが付けてあって、誰が来たというのを監視するシステムというものを付けたり、いろいろと工夫を重ねたのですが、当然今の大村市内の学校では、完全に外部から入ってこれないようにすることは、まず不可能で、必ずどこかが開いています。自由に入ってこられるのです。それはちょっと駄目だなということで、こういう施設を開放する場合に、ひとつは校長の考え方もあるでしょうし、校長の教育、教員の教育もやっぱりしなければ、こういうことでやるんですよということできっちり仕上げなければ、かえって迷惑になる。そういうふうに思いますね。もうひとつは、校舎の敷地内に建て

るのは私は賛成です。ただ、別棟に建てるか、あるいは隣接してもいいけれど、ちゃんと区切りができる建物でしょうね。セキュリティは全く別個にしてしまう。そうするといつでも解放できますよと、それがかえって学校の安全にも繋がるのではないかなと、いろいろと考えが有ると思います。だからそういうジレンマが有ると思いますね。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。ちなみにですが、学校も老朽化して建替えのアセットマネジメントの計画が年度で示されているのですが、同じように各住民センター、出張所も建替えの計画があるんですね。それをマッチングさせようというのが、私の考え方だったんですが、セキュリティの問題はもろんなのですが、もうひとつは村川委員が言われた、教頭先生をはじめとする鍵閉め開けですね、聞いたら教頭先生が早く来て開けているということなんですね。例えば、これも学校を複合型にして地域開放型にすれば、住民センター機能の鍵の開け閉めは、私が竹松住民センターの管理人の息子で育ったのですが、管理人室にいたんです。それで私が朝から鍵を開けに行くのが私の仕事だったんです。小学校の時からです。ところが今は、管理人さんがいないようにして、シルバーに委託しています。シルバーが鍵を開け閉めして、シルバー人材センターの方が来ているんですね。例えば、教頭先生方の負担軽減を全部学校開放型にして、住民センター機能を兼ね備えることで、シルバーに委託できるところは委託をして、鍵の開け閉めを教頭先生がしなくて良い、教員の皆さんは学校に専念することができる、というような体制が整えられないか、あと安易というか、安直かもしれませんが、中嶋委員が言われたように、地域に開放することで、いろいろな大人がくれば、そういう世の中で事件を起こそうとする人が来にくかったりするという逆の発想の抑止力ができないかなと思っていて、こういうことをちょうど建替えるタイミングでできないかなという

ころもあるので、とは言ってもそんなに上手くいくことばかりではないので、嶋崎委員が言われたみたいに、ほらみろというところで事件が起きると取返しがつかないので慎重には考えなければならないと思います。ただお題目として、やっぱりこれだけ松原寺子屋をはじめ、本当に良い地域教育を各学校区でしていただいているので、もっと前に出せないかなと、そんなことを非常に思っています。

教育委員 嶋崎 真英

シルバー人材センターに委託という考え方もありますが、公共施設の運営にはセキュリティに関する大きな責任が伴いますので、やはり、行政として警備会社等に正式に委託する必要があると思います。安易にコストの面だけで判断するのではなく、警備会社の巡回やセキュリティシステムの構築などは必要な投資と考えます。その意味でも、先程、中嶋先生がおっしゃった独立した施設というのは、あるべき姿だと思います。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。是非皆さんからいただいたご意見をですね、私もご意見を参考にしながら、お題目はこれまでの会議の中でも、地域をもっと活かしてという形でご意見をいただいていますし、大村市の教育の在り方としても多様な学び、生きる力、豊かな学力、そういったことを補完するような地域の力だと思っているので、そこらへんを是非、一番上手くこの建替えのタイミングでどういことができるのか考えていきたいなと思っています。

教育委員 佐古 順子

都道府県の中では、10時まで警備員さんがいらっしやったり、警備会社セコムなどを使っているところもあると聞いています。10時までということですので三交代制で警備員さんがいらっしやっていて、教頭先生、副校長先生の仕事を少しでも減らそうということで話を聞いています。それからよくコンパクトシティということでお聞きしま

すけれども、私も詳しくは分かりませんが、大きな人口になってきますので、少しずつコミュニティを集約して、皆さんが生活をしやすいような環境を作っていくということに耳にします。中学校エリアでまとまるということに関しては、図書館の分館ができたりとか、そういうところでも期待しております。ネットで調べる学習でもちょっとした経験が入っていたりしますし、司書さんが授業に関する本を選んでいただきまして、調べ学習に役立てることや、その中で例えば違う図鑑には異なる角度から書いてあることで学ぶ喜びが湧いてくると思いますので、ひとつの昆虫に関しましても、いくつかの図鑑を調べて子供達の興味をつくるということを聞いていますので、調べ学習も司書が必要なと思います。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。本当に様々なご意見をいただきましたので、ちょうどタイミング的には来年教育大綱の計画の見直し、新たに三学期制に移行するなどございますので、しっかりと今、大村市の教育というものを是非、我々行政サイドもしっかり考えていく時期なので、教育委員会と一緒にご議論しながら、建替えについては我々行政側の施策でもあると思いますので、しっかり今後ともご意見を聞かせていただければと思います。

それでは、あと二つありますので先に進めたいと思います。

次に協議事項(2)教育関係予算についてでございます。これについてですけれども、お陰様でこの総合教育会議の中で皆さんからご意見をいただいて、給食を早くやるべきだ、エアコンを付けないと暑くて大変だよ、といろいろなご意見をいただきまして、予算化をして議会にもご理解をいただいて、今しっかりと進めていくことができる程度できております。ただ来年度の教育関係の予算というものを今のうちから皆さんから様々なご意見を聞いて、その上でしっかり財政協議をしながら最終的には議会にお諮りをすることになります。

すので、来年度、繰り返しになりますが教育大綱の見直し、教育振興計画の見直し、改訂といった時期の中で、こういうことに教育予算を掛けていくべきだ、将来的なものを含めて投資をすべきだ、若しくは今ここが不足しているの、ここにお金を掛けていくべきだとか、いろいろなことをご意見を頂戴できればと思います。これについては、最終的に私も判断する立場にありますので、皆さんからざっくばらんにですね、例えば給食を無償化しろとか、何でも良いのでご意見いただければと思っています。

教育委員 中嶋 剛

エアコンについてはですね、非常に中学校の子供達はありがたいと、先生方もありがたいと言っています。良いなと思って本当に羨ましいです。大村市が早く取組んでいただいたお陰だと思っているのですが、小学校も早く欲しいということを中心に、会う度に校長先生方も言っています。今、小学校もぼちぼち付いているようですね。だから本当に良かったなと思いますが、これが次の市民満足度調査にもでてきますけれども、私は是非、予算関係に各小中学校のトイレ設備の充実をですね、洋式トイレ、こういうものをもっともっと増やして欲しいと思いますね。これがひとつです。

もうひとつは、私達が現役で指導をしている頃と違って、今の子供達は本当に各学級に各種多様な障がい、あるいは障がいに似たものを持っている子供達が増えてきている。だから担任の先生方だけでは非常に苦勞をする。こういう現実が起きています。ただそれを考えた時に、大村独自でも良いからそれを補助する方、補助員といいますか、これはいろいろな補助員が各学校において付いておりますが、私はまだまだ欲しいなと、そういう補助員を大村独自でも増やして欲しいと思います。この二点でございます。

大村市長 園田 裕史

今、中嶋委員から非常に重要で、またこれまで進めてきたことのさらに拡充というものがあるの

で、もしよかったら事務局からトイレの経過と補助員のここ数年の推移を今年度は増やさせていただいたんですが、その辺りを簡単に説明していただけたらと思います。

教育次長 吉村 武史

教育次長の吉村でございます。私の方からトイレの方をご説明させていただきます。トイレにつきましては、昨年度3か年計画で実施するという事で、今年度から3か年かけて洋式化を進めていくところだったのですが、実設計をしまして、当初の予定の三倍の事業費がかかるという事で、今年度の当初予算には計上できませんでしたが、但し、国の交付金等を使って出来るだけ一般財源の持ち出しを減らすような形で計画をしまして、今年度から何とか3か年で対応できないかということで、今調整をしているところでございます。これについては3か年掛けて何とか実施したいなというところで進んでいるところでございます。

大村市長 園田 裕史

最初三倍に跳ね上がって、どうしようと思ったのですが、文部省から来ていただいている丸山政策監がですね、文科科学省の財源を見つけてくれましたので、今どうにかならぬかなと教育委員会で協議をいただいています。

教育次長 吉村 武史

洋式化率につきましては、100%ということは厳しいのですが、60%を目指して、今が40%ですが、3か年を目指していたのですが、先程申しましたように事業費が膨らみましたので、四か年で対応できないかということで調整しています。

大村市長 園田 裕史

今が40%くらいで、全国平均が43%ですね。全国平均と一緒になんです。ただ60%くらいまで上げられないかということで、県平均が60%でしたっけ、違いましたか、県はもっと低いんですね。全国平均ぐらいなのですが、60%まで上げられないかということですね。そしてやはりいろいろな

特性上、女性トイレを優先的にするのか、どこからやっていくべきかとか、最終的に調整をしている状況であると私も聞いています。

学校教育課長 橋口 智秀

各種補助員について、学校教育課の橋口でございます。本年度実績としましては、50名の各種補助員の配置がなされています。これにつきましては、市長の方からありましたように、今年度増員の結果50名ということです。内訳を申し上げますと、低学年の補助員、新一年生にあたる補助員が7名です。次に特別支援学級の補助員が16名です。そして要介助児在籍校、要するに学校で要支援、介助が必要な子供達の支援にあたる補助員が17名です。そして学力向上補助員、学習上困難を感じている子供の傍について補助にあたる補助員を10名ということで、合計50名の配置が今年度なされています。以上です。

大村市長 園田 裕史

昨年度と比較して何人増やしたんですか。

教育政策監 丸山 克彦

平成30年度は合計42名でしたので、8名増です。内訳は特別支援学級補助員が11名から16名の5名増、要配慮児在籍学校補助員が14名から17名の3名増となっています。

大村市長 園田 裕史

これまでずっと昨年まで補助員を増やすことが出来ていなかったのですが、徐々にずっと全体的には増やしていったのですが、さらに増やすということに対応できていなかったのですが、今年度増やさせていただいて、今50名で対応いただいています。ただ中嶋委員が言われるように、まだまだ多様な学校現場での諸問題を聞いたり、教育委員会からもそういった報告、現場からの声があがってきているので、そこはしっかりとしていきたい。あとは皆さんから本当に何でもござらんばらんに何でも良いのですが、渡邊委員何かございますでしょうか。

教育委員 渡邊 敬

健康診断などでいろいろと学校にいきますと、入りにくいところがあってセキュリティの問題があるのですが、一カ所からしか車で入れるところがないし、入口が分からない、そういうところがあります。その辺を少し整理されて駐車場とか子供の安全に気をつけながら、本来の整備をやられるようにと思います。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。今、多分年間で1億5千万円の施設改修でしたかね、何しろですね、毎年たぶん私の記憶では5千万円ではなかったかな、21校で5千万円の施設改修費という枠があって、それを各学校から優先順位をあげて、例えば穴があいていたら埋めてくれとか、網が老朽化しているから変えてくれというのを各学校から優先順位を上から三つぐらいつけて、各学校長からあげてもらっているんですが、たぶん中嶋先生の時からそうじゃないなと思うのですが、たぶん各学校で年間で5千万円ぐらいだと思うのですが、その中で遠藤教育長からこんなに毎年あげていても話にならないということで、一回どこかでリセットしようということで改善を進めた時もあるのですが、引き続き学校施設は老朽化しているので、改修にお金を入れていかなければならないということがあるのではないかと考えていまして、最近、先程の話ではないですけども、建物自体が古くなってきていて、毎年のように傷みができてきているんですね。だからその問題と、これも丸山政策監に何とか頑張ってもらって、財源を取ってきていただきたいと思っているのと、グラウンドの水はけが悪いんですよ。本当に。なので、近年でいうと萱瀬小学校、放虎原小学校を変えさせてもらっていますけれども、大体2千万円ではなかったですけど、広さによってはもっと5、6千万円かかりますので、そう簡単にはいきませんけれども、順番を考えてグラウンド改修もするかと、いづれにしても渡邊委員が言われた学校施設の改修というのは、21校の5千万円ですと1校2百万円に

しかならないと、これではどうにもならないと議員の時に話をしたのがあって考えなければならぬなど。実際、それを先にやっていることで、この間のブロック塀とかを回避できることがあると思いますので、事故が起こらないうちにせんばいかんとでしょうね。あとは皆さんからないですか。ソフト事業的なことでも。

教育委員 村川 一恵

先程の補助員の中嶋先生の話と同様になるのですが、不登校の児童が多いという問題もあって、通級教室を増やせば良いなどは思いますけれども、不登校に関しては各学校の担任、または学校の先生方がすごく頑張って対応をされているんですね。ただそれも働き方改革に繋がるような仕事量の増加にもなっていると思います。なので不登校に対応する専門の先生や専門員のような人をもっと少し教育委員会や学校に配置できるような予算を取れたりするのも理想かなと、思ったりしますね。文科省でも不登校に関して何かしらいってましたよね、変ってきていますよね。そういう流れ動きもありますので、不登校に上手く対応できる教育システムのありようを作っていかなければならない時期にきているのかなと思います。

大村市長 園田 裕史

今、私がいうのもあれですが、不登校については本当に大問題でして、私も自分の思いも含めて精神科の病院にいたので、不登校だったり、被虐待児であったりする子達を見てきて、議員になったのが平成19年だったのですが、翌年の平成20年に全国で14カ所ぐらいに選定をされて、スクールソーシャルワーカーの事業がモデル地区の大村市で始まったと思うのですが、山下部長に協力をいただいてですね、その時に大村の不登校児はワーストぐらいひどかったのですが、スクールソーシャルワーカーやこころの教室相談員とかをやってきて、改善して良かったのですが、また今、時代の変化といろいろな何がということではないのですが、人口が増えて若い人達が増えて、新しい

人も入ってきて、いろいろな絡みの中でまた増えてきていると。遠藤教育長とどうにかせんばいかんということで対応をしてきて、私が就任して四年間では、ひとつは、おととしから始めたメンタルヘルスケアアドバイザー派遣事業とあって、各中学校に精神科医を派遣して学校の先生方の相談にのる、負担の軽減、それが直接的に生徒指導とか、もしくは治療に繋がるとそれは医療の分野ですから、教育、福祉ではどうにもできないから、治療につながるのだったら治療という選択もあるし、いろいろなことをやっていました。それと、さっきの補助員の増員もそうですが、通級の校区をそれまで大小だけだったのを、竹小と富小に増やしました。それと中学校が郡中だけだったのを玖島中にも増やしています。だけど増やしはしているんですが追いつかないかもしれないと、今、村川委員からあった通級、若しくは通級になる前の話になるとやっぱり補助員とか、各学校でボーダーというか通級まではいかないけれども、何とかやれているけれどもキツイという子達へのきめ細やかな対応を考えないといけないですが、どういものが出来るかをですね。何か教育長、これまでの経過の中で感じられているものとか、不登校のことでありませんか。

教育長 遠藤 雅己

ここ2年から3年くらい、毎月不登校児対策協議会を関係者が集まってやっています。数字から繋がっていない子、学校と繋がっていない、スクールソーシャルワーカーとも繋がっていない、地域の子供達とも繋がっていない子供達がいるということも話題にしています。ある程度繋がっている子は大丈夫なのですが、やっぱり繋がっていない子供達が最近増えてきていて、傾向としては小学生が増えてきていますね。この子が中学校に上がってということになります。昨日も話していたのですが、やはり今、不登校の子供達が中学生を中心に出てきている場所があるのですが、その辺りをもっと専念しなければならないのかなという時

代に入ったのかなと。丸山政策監とよく話しているんですが、今、研究しているのはフリースクールと単位認定の問題で、これについて他の県が進んでいるところもたくさんありまして、これについては福祉分野とかこども未来部とかで助成金をだして、ほとんどが無料で行けるような状況で運営をされています。だから週に何回出れば何千円とか、所得に応じてしているところもあるし、安い子は0円、一回につき300円、そういうところまで支援を広げています。大村市内でもフリースクールがかなりあるのですが、実態と学校との連携というのがまだで、その辺りが上手く繋がっていないんじゃないかなと思いますね。ある程度その辺りは教育委員会だけではなくていろいろな関係部署が把握していかなければならないかなと思いますね。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。嶋崎委員どうぞ。

教育委員 嶋崎 真英

大村市は「教育のまち」を標ぼうされていますが、市民満足度調査の自由意見、補助員や施設整備に対する委員の意見など様々のご意見があります。例えば学力は、相対的な指標で客観的な評価が可能ですが、不登校や待機児童に関しては私たちもその都度説明を受けないと状況を把握できません。ですから不登校や待機児童の割合などの数値を市民に公表し、それらに関し、いわゆるKPIとなる指標を示すことで、適正で客観的な行政評価につながると思います。令和元年のアンケートをみますと、満足・やや満足は27.1%ですが、やや不満・不満が13.1%増と総合評価が悪くなっています。大村市はきちんと取組まれていると思いますが、基準が分からなければ評価のしようがなく、その影響が出ているのではと思います。また、アンケートは自由なご意見であり、それが独り歩きしてしまうこともあると思います。

村市長 園田 裕史

ありがとうございます。このアンケート自由意

見をですね、これは改めて協議(3)にも入りますけれども、ひとりでこれを読みますと辛いなど、思いながら読んだところでもございましたけれども、今、嶋崎委員からもありましたように、なかなか教育、福祉というのは数値で表しにくく、KPIで示しにくいところもあるのですが、やっぱり数値的評価をしていかないと改善が見えないし、役所内、若しくは教育委員会内で評価基準を明確にしていくことがひとつ、今話をしている次の政策を何に使うかということにもなりますし、大事ななと思います。それでちょうど今年度が、一方で地方創生の総合戦略の書換えの時期にきていて、同じように地方創生の総合戦略のKPIは全部各項目に書いて出すことになっているので、ちょっと連動させていろいろなことを考えていかないといけないなど。それと、嶋崎委員から表に出して、こういったことを市民の方に知ってもらって本当に出して、こういうところに市民も協力してくださいとやっていくということを是非来年度、大綱計画の見直しですから、そういった取組を表に書いていっても良いのかなと、今お話を聞いて思ったところです。

今、嶋崎委員からも市民満足度調査のことで触れていただきましたので、そのまま次の協議事項(3)の市民満足度調査(教育関係)とありますが、結果についてご意見をいただきながら、また先程の協議事項(2)にも関連するように、こういうことを書いてあるからここに予算を入れないといけないんじゃないかとかを含めて、忌憚のないご意見をいただければと思います。皆さんに目を通していただいて、私も3回も4回も読みましたけれども皆さんからご意見等々ありませんでしょうか。ちなみに今日は、こども未来部の山中部長にも来てもらっていますけれども、待機児童については一生懸命頑張ってもらって、なんとか来年4月には解消できるように今準備を進めているところです。施設を増やして、定員を増やして、保育所を確保して、これが大きな柱です。ありとあらゆる

方策をとって、待機児童を解消していきたいと思っています。学童についても今やはり共働き世代が多い中で、学童施設が不足しているところもあるので、そこについても施設拡充を含めて考えていかなければならないという話はしています。嶋崎委員がおっしゃっていましたが、1ページ「教育のまち」をうたっているわりには、学校の施設等の充実や補助などが足りないと思う。もっと他市を参考にして「教育のまち」らしい市してほしい。とかですね、40代女性ということですから同世代ということになります。胸に突き刺さる意見です。

教育長 遠藤 雅己

これは前回の話し合いでたぶん出てくるだろうということで、予測問題で前回の定例教育委員会でやっていたんですが、的中して今回、委員さんいろいろな意見を持っておられると思いますので宜しくお願いします。

大村市長 園田 裕史

佐古委員どうですか。

教育委員 佐古 順子

先日、皆さんとお話をした時にやはりトイレの話が話題になりました。やはり教育環境ということに関しましては、トイレが追いつかないという結論に至ったところでした。

教育委員 嶋崎 真英

トイレの美化に関しては、イエローハットの鍵山さんも推奨されていますが、子供たちの教育の一環としても、美化・清潔というものは大切なことだと思います。ハウステンボスの坂口社長が就任されて従業員の意見をいろいろと聞かれた際、真っ先にでてきた要望が、30数カ所あるトイレのウォシュレット化ということだったそうです。子供たちの意見もそうなのかもしれません。

大村市長 園田 裕史

トイレはですね、洋式化もそうなのですが、トイレが臭いという意見もたくさんいただいて、今年度も教育長や教育次長と話して、脱臭とか老朽

化しているから排水管のところとか、床もドライ方式ではないから、水をじゃぶじゃぶ入れて小さい頃も掃除をしていましたけれども、排水口のつまりとかもあって、臭いがなかなか取れないんですね。ただ、そうも言ってもらえないので、臭い、トイレ、これは本当に来年とは言わずに出来る限りやっ払いこうという話にはなっているところです。今、嶋崎委員が言われたんですが、私もイエローハットの鍵山秀三郎さんの本を読んで、あの本を読んだら本当にトイレ掃除がいかに大事かがよく分かるんですね。トイレを綺麗にするという観点もですが、逆にトイレ掃除を皆で一生懸命やろうよということも教育かもしれないなと思って、先般、上村さんという歌手の方の「トイレの神様」という7分くらいの長い歌があるんですが、あれを聞くと涙を流すのですが、あれを学校で流しながら掃除の時間にトイレの掃除をすると、おばあちゃん、おじいちゃん、ありがとうということを含めて教育的に良いんじゃないかなと思ったくらいトイレというのは大事だなと思いましたね。

教育委員 中嶋 剛

令和元年度の学校教育関係のご意見の中に、小学校の時間割が各学校違うとありました。実は違うんです。各学校の時間割は、学校長が決めていることになっているんです。教育委員会が決めるのではないんですね。だから当然違うのが当たり前なんですね。若干の時間のずれがあります。しかし、そう大きな違いはないと思います。学習指導要領等々いろいろと授業時間数の関係があって、この時間に始まってこの時間に終わるということで、若干の違いはあるけれども、その違いは必ず各学校ありますよ、ということを保護者あるいは地域に知らせなければならぬと思いますね。それともうひとつ最後のページに、いわゆる中高一貫教育で是非、大村高校に作って欲しいというご意見がございましたが、これは40代、70代で確かに私も欲しいなと思います。だから歴代の市長さんも言っていました、なかなか県央地区には

諫早がすでにあるので、ちょっと無理だということとで県教委も言っているということなんですね。しかし、私は諦めずにこれは大村市の意見としてガンガン言っておくべきだなと思いますね。橋口課長さん、今年は何名諫早方面に流れましたか。今調べてくれていると思いますけれども、かなり多くて50名とは言いませぬよ。70名ですか。私立学校を入れてですね。これだけの子供達が向こうにですね、私もたまたま列車に乗って長崎から帰ってくる時に諫早から男の子が乗りましたので、あなたはどこの学校と聞いたら、諫早の中高一貫校に行っていますということで、どこ出身ねと聞いたら、大村小学校というふうに言いましたね。そうね、勉強楽しい、とかそういう話をしましたけれども、本当に流れているのは私も残念だなと改めて思いますね。しかしこればかりは学校としてもどうしようもない、是非、大村高校に行きなさいという指導はなかなか出来ない。最終的には家庭で決めますから、どうしようもないのですが、だからこういう意見が確かに出ていることは本当に私も同感です。大村高校にも欲しいです。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。

学校教育課 橋口 智秀

大村市外の中学校へ進学している児童になります。まず、県内の方には本年度44名、平成30年度が58名になっております。過去ずっとみますと、60名前後で推移しておりまして、本年度は44名とちょっと少なくなっている傾向がみられます。諫早だけですと18名で、今年度の新一年生で私立を除いております。

教育委員 中嶋 剛

私立であれば青雲とかもだし、附属中だけでなく私立に進学する傾向もありますね。

大村市長 園田 裕史

ここには大村高校卒の方が比較的多いかなと思いますので、やはり大村高校にと思われたい

ます。市内では唯一の進学校ですから。私は大村工業高校卒業なんですけれども、だからと言って工業の中高一貫を言っている訳ではなくて、まさに中嶋委員から言われたように、県教委が公立の中高一貫をやるということを示した時に、県内に三つと、長崎東、佐世保北、最後に県央となった時に諫高なのか大高なのかというやりとりの中で、諫高がとったわけですね。そうすると大高にということとは極めて難しい判断が当時の松本市長にあったので、これは普通にやっても中高一貫は出来ないと、一応義務教育の中で小中一貫というのが教育委員会で一緒にみんなで力を合わせて特色ある小中一貫をやる、これが市で出来ることです。それを一生懸命やったら理想形は、青雲に行けるけど俺は地元の中学校に行く、というのがあって一番良い、なんでかという特色のある小中一貫教育を大村でやっているから、これが理想形ですけども、なかなかそうならなかったり、大村市内はお医者さんも多いですから、医学部進学率が高いということが県内でもありますから、そういったこともあるのかなと。教育長ともお話ししましたがけれども、諫高の中高一貫だけかというのと、創成館、日大、諫早にある私学の高校というのは非常にユニークで、特化をした創成館、鎮西、向陽も含めて、私学のユニークな学校というのはたくさんあるのでそういったところがひとつあるのかなと思っています。それで大高の中高一貫ということと同じ進学校で諫高と前、競走してなかなか難しかったので、これは本当にウルトラCを考えないと中高一貫ができないと思ったことから、今何が大村市の強みかといった時に、今大村工業高校のスポーツ、資格取得、それと企業誘致でいつも言われる大村工業高校の子を取りにきたと、その子達を取りたいから企業を誘致したということであれば、ここを理系のスペシャル校にして何とか中高一貫校にできないかなと、技術者を中学校から育てる視点ではなくて、スーパー理系ですね。昨年からはちょうど大村高校が、スー

パーサイエンスハイスクールになったので、そういう理系を打出していれば新しい展開ができないかなと、今現に大村工業高校の中高一貫校を言っているところです。

教育委員 鳴崎 真英

長崎の場合は西高、東高が突出していて南高・北高との差が広がっています。諫早高校と大村高校にも同じような傾向にあり、将来的な問題となっています。おそらく西高は先生と生徒が校風そのものを一緒になって築き上げたことで、今のようないい成績を修めることが出来ていると思いますが、そういった取組を、大村高校の先生と生徒、そして同窓生も協力して行わない限り、差は広がる一方です。ですから是非、中高一貫教育を構築することが可能であればチャレンジしていただきたいと思います。

大村市長 園田 裕史

とは言いながらですね、この前私も大村高等学校の同窓会に参加をさせていただきましたけれども、鶴田校長先生から学力アップ率という、成績向上率、つまりたぶん4月に受けた模試と、12月に受けた模試とのアップ率ですね、成績の向上率が県下トップだったらしいんですね。大村高校がですね、そういうことをおっしゃってました。そういう話でした。要は1年生から3年生に上がる時に学力が上がったという、伸び率が県下トップということでした。それと、先程のスーパーサイエンスハイスクールではないですけども、数理探究科この良いか悪いかわかることは別として、数理探究科の国公立進学率が、西高とかと同じ率であったと鶴田校長はおっしゃっていたので、良いところを大村高校で出していただいて、市内の親御さん、子供達にアピールすることも大事かなと思っています。ここに関しては、私達が県立高校のことに踏込むことはできないのですが、しっかりと今後も何とか中高一貫と言われる高校教育機関というものを大村に設置できないかと、それが大高であればそれはありがたいし、なかな

か難しい感じであれば、今言ったウルトラC的に大村工業高校で超理系みたいな考えで提案をしていきますが、もしかすると大村市はスポーツが盛んですし、文化も吹奏楽を含めて、大村中学校が九州大会にいきますけれども、すごく盛んなので強みをいかした特色ある、できれば中高一貫みたいなことができないかなと思っています。この前教育長と話んですが、小学校6年生の優秀な子達が抜けていると、言い方が悪いんですが抜けて公立にいった子達が学力状況調査でランキングを上げたわけですから、それはすごいと思いましたよ。だから本当に学校の先生方は頑張っていたと思っています。この子達がいたとしたら、また違う順位だと思うんですが、いなくても順位を上げているのですから、ここが本当に頑張っているなと思います。

教育委員 嶋崎 真英

18名ですか。

大村市長 園田 裕史

全部、日大とかを入れると4、50名ですから、単純に15校で割った時に、各学校3、4人ずつ抜けた後の子達が公立中学校にいて、その子達が学力を上げたというのが頑張っているなと思いますね。

教育委員 嶋崎 真英

平均点を20点ぐらい押上げているからですね。

大村市長 園田 裕史

非常に幅広いご意見をいただいております、ありがとうございます。いずれにしてもこの市民満足度調査にあがっているお声、それと今委員の皆さんからいただいたお声を含めて、私もこの総合教育会議の中でのご意見を持って帰って、どういった予算編成にしていくのかを役所側として行政側として考えていきます。また、教育委員会の中でもまた揉んでいただいて、こういうことを来年度もしくは将来的に投資をとということで、予算要求の内容をまとめていきたいと思っています。

これで協議の三つは本日終了いたしましたので、

司会に進行を戻したいと思います。ありがとうございました。

企画政策部長 山下 健一郎

それでは次第(4)その他に移ります。この(4)につきましては、協議以外に最近起こった出来事などで、この総合教育の中で意見を聞いた方が良いのではないかというようなものがありましたら出していただければと思うのですが、どなたか話題の提供などはございませんでしょうか。

教育長 遠藤 雅己

話題の提供で、丸山政策監と話をしているのですが、全国的に子供達の数が減っています。40万人ぐらい日本の人口が減っていて、その中で働き方改革もありますけれども、いかに労働力を確保するかということでやっきになっているかと思えますね。その中で外国人労働者の話が入ってきていますけれども、今、よく雑誌を見ると女性の子育てしながらの職場復帰、これを応援していくということでかなり出てきていますね。その中で、東京にある小学校が、超高層ビルの中に学校を入れて、その中にたくさんの支所があったり病院があったり、結局は女性の応援のために子供達を預けて、仕事が終わって連れにいても保育園も近くにあったり、学童があったり、ショッピングができるような「まちづくり」を多分していると思います。その中で我々も教育の中で発想の転換で、先程もありましたようにセキュリティとか危機管理とか、そういう面で「まちづくり」とか、例えば学校の近くに学校をひとつの分体にして、またはそこにオープンキャンパスを作って、そこに学童も中に入っていて、入口は違うけれどもセキュリティがあって、そこには交番があって、そういう「まちづくり」も夢ではないんじゃないかなと、そして、敷地内をできるだけ広くして親が迎えにこれのようなスペースをつくって、そこで買い物をして学童に行って子供を連れて中学生のお姉ちゃんがいる。そういうことが根底にあればなど。だから「まちづくり」がいろいろなテナントが入

っての「まちづくり」というのと、やはり教育関係の学校が中心として賑わう「まちづくり」というものを考えられないかなと思ってまして、そういうものがひとつのシンボルタワーのようなものがあれば、防災管理も兼ねた学校ができればなと、ちょっと丸山政策監と話していました。また情報が入りましたらお話しさせていただきたいと思えます。これが情報提供ということでございます。以上です。

教育委員 嶋崎 真英

それに関してですが、ジャパネットさんが進められている幸町の長崎スタジアムシティでは、施設の中に託児所の設置を計画されていると伺いました。子育て支援はますます重要な取組となりますので、企業だけではなく、行政も支援をしながら一定のコミュニティ単位で託児所等を整備することで、女性が活躍できる機会も増えると思えます。大村市でどのような支援が出来るかは分かりませんが、検討しなければならぬテーマであることは間違いありません。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。新しい展開をですね、いろいろと注視しとかなないといけないなど、そう言えばということで情報提供なのですが、彼杵に新しい学校法人の和歌山だったかな、小中一貫の学校が来ているんですね。これもまた特色があって民間ですから、本当に大村市からもこの学校に小学校から行かせたいという保護者さんが今後出てくるかもしれないし、既にいらっしゃるかもしれないし、先日福岡で移住相談会をやった中で、大村に移住したいという人がいたんですよ。それがすごく若いご夫婦でしたけど、何で大村ですかと聞いたら、彼杵の学校に通いたいと、住むのは大村が良いんだと、ありがとうございますと、学校も大村でと言ったんですが、今後こういうのが出てくるかも知れないですね。やっぱり注視して学ぶことが大きいと思えます。先程からある特色のある多様性のある豊かな学び、たぶん彼杵の学

校は進学率が高いとかそういうような学校名ではないと思うんですよ。何かしら特化したおもしろい取組みがあって、あのような学校がある。そういうのを公立で小中で出来るというのを私達が皆から学ぶところかもしれないなと思えます。そこから辺も今後是非、皆さんと情報交換できればと思えます。

企画政策部長 山下 健一郎

ありがとうございました。先程も市長も言われました移住という移住相談会で、今も来年度子供が東彼杵の学校に入るから大村の方に北海道からきたいという方とか、結構な移住相談があつています。また、教育長と嶋崎さんから話がありましたけど、女性の働く活躍する場所での保育サービスで、そういったものについても私どもも来年の予算案でできないかと、移住のコンセプトにお母さんが楽に暮らせる「ママ楽」というのをコンセプトにあげておりますので、どんなサービス・サポートができるかを、こども未来部あるいは移住の関係先と、新しい案を検討をしている状況ですので、ここが煮詰まりましたらご紹介をさせていただきたいと思えます。ありがとうございました。

それでは次回のお知らせになります。今回は総合教育会議という形ではなくて、皆さんの意見を自由に聞くという意見交換会をやりたいと考えております。毎回、公開でやっておりますが、なかなか公開ではだせないところもありますということで、意見交換会ということで次回は開催したいと思えます。また、第3回は通常ですと1月か2月ぐらいに開催をする予定なのですが、今年は市長が言っていましたとおり教育大綱の作成等がございます。11月には教育大綱をつくりあげたいと思っておりますので、素案の方を総合教育会議の中でお諮りしたいと思っておりますので、11月臨時開催と思っておりますが、これでご了承いただきたいと思えます。日時、場所については後日調整をさせていただきますので、宜しく願いいたします。

以上で終了となりますが、委員の皆さんから何かございませんでしょうか。次回は10月2日に意見交換会という形でしたいと思います。宜しいでしょうか。ないようでしたら、これをもちまして令和元年第2回総合教育会議を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。